

NPO法人 九州バイオマスフォーラム

〒869-2232 熊本県阿蘇市赤水字大堀 695-10 TEL 0967-35-1128 FAX 0967-67-2577  
http://www.biomassml.com/kyushu.html kbf@aso.ne.jp 平成 18 年 1 月 KBF 事務局発行

### 寒中お見舞い申し上げます

事務局長 中坊 真

旧年中は、大変お世話になりました。本年もよろしく願い申し上げます。

さて、世間ではライブドアの元社長のホリエモンの逮捕で騒がれておりますが、私もホリエモンと同じ年のためかよく比較されます（やめて欲しいです）。ちなみに、元横綱の貴乃花も同じ年なのですが、彼も横綱になったり若貴兄弟の確執が騒がれたり、大変だな～とワイドショーなどを見て思いましたが、私はテレビやマスコミなどとは無縁の生活だと思っておりました。むしろ静かに生活を送りたいと思っていたのですが、NHK 熊本から対談番組の出演依頼があり、KBF の活動を広く知っていただくために事務局長として（ガチガチに緊張しながら）出演させていただきました。夕方の放送だったのですが、私の近所のお年寄りの方々には見ていただいたようで、テレビ見ましたよと声をかけられました。ただひとつ問題がありまして、どうやら私を NHK の職員と思われたみたいです。NPO と NHK を勘違いされたみたいですが、今年は KBF の活動を地域の方々に十分理解していただけるように、地元密着の広報啓発活動を進めていきたいと思っております。（もちろんコンプライアンスにも力を入れます。）

#### <NEWS&TOPICS>

- 9 月 7～9 日 九州バイオマスソリューション大盛況（p.2）。
- 10 月～12 月 ストローベイルハウスのワークショップを開催。
- 10 月 31 日～11 月 1 日 東アジアバイオマスシンポジウム開催。見学会 100 名以上参加。
- 12 月 2 日 「阿蘇草原再生協議会」が発足しました。
- 12 月 12 日 NEDO バイオマスエネルギー地域システム化実験事業に阿蘇市採択（p.4）。
- 12 月 16～17 日 南阿蘇村と有田市でバイオガスセミナーを実施しました。  
メタン発酵消化液を使ったお米の食味試験を行いました。
- 1 月 25 日 吉田理事長が元気な双子の男の子を出産。

#### <イベントのお知らせ>

### 熊本でバイオディーゼルの普及を目指したセミナーを開催します！

日時：2006 年 2 月 10 日（金） 10:30～12:30

場所：グランメッセ熊本（ステージゾーン）

基調講演： 菜の花プロジェクトネットワーク会長・藤井絢子さん

入場無料！ 同封のチラシをご覧ください。

第 3 回環境&福祉ビジネスフェア（2 月 10～12 日）の中で開かれるセミナーです。廃食油からできる BDF。代替燃料としてビジネスチャンスはあるのか。BDF を日本で広めるきっかけをつくった藤井絢子さんの講演に続き、熊本新港で行われている菜の花プロジェクトと、阿蘇市でゴミ収集を行っている㈱環境に事例発表をしていただきます。熊本県における BDF をめぐる動きがつかめるセミナーです。入場は無料。皆さまのご参加をお待ちしています！（3 ページにも BDF のセミナー案内あり）

## 9月7～9日 九州バイオマスソリューション報告

昨年の9月7日から9日まで、福岡国際センターにて日刊工業新聞社主催のメッセが3つ同時に開催されました。「九州バイオマスソリューション」はその中の一つで、KBFは企画や運営に携わりました。ちょうど大型の台風が九州に直撃した直後でしたので、客足の不振が心配されましたが、予想以上の大盛況でした。その模様をご報告したいと思います。盛りだくさんだったシンポジウムとセミナーの講演要旨集も販売しておりますので、ご関心のある方は4ページをご覧ください。

### <バイオマスタウンサミットについて>

バイオマスサミットパート1では、NEDOと九州経済産業局から国内の事例や助成制度に関する有用な情報がたくさん紹介された後、村内のエネルギー需要をバイオエネルギーだけで供給するドイツのユーンデ村の取組みについて、そのプロジェクトを指導してきた二人の教授に紹介して頂きました。実際にエネルギーを100%自給するのは今年の冬からとのことでしたが、会場からはたくさんの質問やコメントが出され、バイオエネルギー村に対する高い関心が伺われました。

バイオマスサミットパート2には250名を超える参加があり、大盛況でした。農林水産省資源循環室から「バイオマス・ニッポン」の意義や目標についての講演があり、それを受けてバイオマスタウン構想を策定している大木町（福岡県）、日田市（大分県）、南阿蘇村（熊本県）、西海市（長崎県）からそれぞれ構想の内容や策定の経緯が紹介されました。そしてパネルディスカッションでは九州でさらなるバイオマスタウンを増やすための議論がなされました。自治体からは補助金の使い方や種類が不明確な点が指摘されましたが、これに対し九州農政局からは、使い方を細かく限定していないことによって、柔軟な対応が期待できるという心強い回答が得られました。

また、当日実施したアンケートによると、「バイオマス」という言葉がまだまだ一般的には知られていないことが複数名から指摘され、見学会の開催を強く希望するという声が聞かれました。一方で、もっと技術的なテーマの内容、企業の開発のレベルを知りたいという意見もあり、対象者を分けて広報啓発活動を進めていく事の必要性が感じ取られました。「相互理解と点から線への（展開）つながりが重要だと思いますのでその橋渡しとして頑張ってください」というKBFに対するエールも頂きました。



### <セミナーについて>

右のスケジュール表でお分かりいただけるとおり、セミナーの数は膨大で、バイオマス関連のイベントで開催されたセミナー数としては過去最大だったのではないかと思います。内容も多岐にわたっており、多くの方が会場を訪れるきっかけをつくることができました。しかし同じ時間帯にいくつものセミナーが重なってしまった点は、今後の反省材料として残りました。

しかしそれぞれのセミナーに対する参加者の満足度は高く、全体としては大成功だったと言えます。九州バイオマスソリューションで行われた21セミナーの講演内容を1冊にまとめた講演要旨集の作成を行いました。バイオマスの幅広い分野の情報をひとつにまとめたことで、参加者から好評を得ました。

### <バイオマス交流会>

バイオマスサミット終了後に、交流会を開催いたしました。参加費1000円で、ビール飲み放題ということで、多数の参加がありました。ビールのカップは、バイオマスプラスチックを使ったカップを（社）日本有機資源協会から提供していただき、バイオマス談義に花が咲きました。2次会、3次会まで盛り上がったようです。こうした交流会でも、点から線へのつながりが生まれる第一歩になったのではないかと思います。今後もこうした交流会を開きたいと思いますので、ぜひご参加ください。



# 草原バイオマスエネルギー地域システム化実験事業スタート

KBF 設立準備段階から取り組むべき課題として位置づけていた阿蘇地域の草本バイオマス利用に向けた取り組みが、阿蘇市でいよいよ始まります。阿蘇市が事業責任者となって申請した「草エネルギー利用システム化事業」が NEDO の委託事業に採択が決まったため、今後 5 年間をかけて未利用のススキをエネルギーとして利用するためのシステム作りに取り組みます。概要は以下のとおりです。

目的：阿蘇の景観保全・生物多様性の保全・観光資源の保全

草本系バイオマスのエネルギー利用の道を拓く

草本系バイオマスの特徴：

- ① 面積あたりの生産量が高い。(ススキは 5~24 t/ha 木材は 3~5 t/ha)
- ② 木質バイオマスと比べると乾燥しやすい。(自然乾燥で水分量 15%以下)
- ③ 毎年同じ場所で収穫できる。(木材は 10 年以上必要。)
- ④ 傾斜地での収集運搬が木材よりも簡便。
- ⑤ 粗飼料や堆肥としても利用できる。(収穫すれば様々な活用方法がある)
- ⑥ 栽培コストが安い。(自然に生えている。)
- ⑦ ススキは河川敷やスキー場など日本全国に分布している。(普及性)

上記の特長を生かして、効率的な草資源の収集運搬システムを構築し、草資源の総合的な利活用を計りながら、日本で最初の国立公園である阿蘇の草原景観の保全に貢献することを目的とします。

実施内容：

阿蘇市の未利用採草地からススキを集め、ガス化によるコジェネ施設で発生した電気と熱を温水プール施設等で利用する

コンソーシアム（共同事業体）メンバー：

阿蘇市、九州バイオマスフォーラム、中外環境エンジニアリング(株)、九州電技開発(株)、(株)エックス都市研究所

本事業は、草資源のエネルギー利用を目指した日本初の本格的な事業となります。現在、国土交通省や各自治体は、道路敷や河川敷の除草作業と刈草の処理に莫大な税金を投じていますが、本事業によってこうした草資源をバイオマスエネルギーとして経済的・社会的に利用できるシステムを確立できれば、全国のモデルケースとなることが期待されます。事業主体は阿蘇市ですが、KBF は本事業の提唱者であることから、事業の実施に当たって大きな役割を担う事になります。今後とも会報やホームページを通じて事業の経過をお知らせしていきますので、どうぞご協力お願いいたします。

## 2月25日 手づくりBDFセミナー開催！

「食品も工場で作るものと、手づくりで作るもので味や品質が違うように、手間と時間をかけた手づくりのBDFには、プラントで精製したBDFには無い品質の良さがあるのですよ」と話す平賀さん。その平賀さんに、講演と実践的な実演を含めて、たっぷり4時間のセミナーを行っていただきます。手づくり派の皆さんは、ぜひこの機会にご参加ください。講演だけの参加でも結構です。

日時：2006年2月25日(土) 14:00~18:00

場所：南阿蘇村総合センター(旧白水村庁舎横)

講師：NGOジャーニー・トゥーフォーエバー 共同代表 平賀 緑

参加費：未定(資料代程度)

- ① プレゼン：バイオディーゼル燃料の紹介、作り方の概要、質疑応答(約1時間)
- ② 実演：バイオディーゼル作りの化学反応の仕組み(約3時間、休憩含む)  
滴定-廃油からの燃料づくりのポイント  
手づくり燃料製造器の機能説明と燃料づくりの実演





**九州バイオマスソリューション  
講演要旨集**

1000円(税・送料込)

**好評販売中!**

※10冊以上お申込の方は、3割引で販売いたします。



**東アジアバイオマスシンポジウム  
講演要旨集**

1000円(税・送料込)

**残りわずか!**

**九州バイオマスソリューション 講演要旨集**

- 「バイオマスエネルギー導入政策と NEDO の事業計画について」  
(独) エンジニアリング事業本部開発部プラント開発G 主任 三浦俊泰
- 「ドイツのバイオエネルギー村プロジェクト」  
ドイツ・カッセル大学 教授 マリアンネ カルペンシュタイン
- 「廃棄物バイオマスの持続可能なマテリアルリサイクルの提案」  
大分大学工学部 助教授 酒井 謙二
- 「バイオマスプラスチックの最前線」  
三井化学 八木 正
- 「乾式メタン発酵を用いた固形有機性廃棄物の高効率メタン発酵」  
栗田工業(株)
- 「木質バイオマスガス化発電システムについて」  
(株)明電舎
- 「島しょバイオマスの有効利用について-奄美群島を事例として-」  
鹿児島大学農学部 助教授 寺岡 行雄
- 「ガソリンスタンドにさよならしました!手づくり BDF&天ぷら油そのまま燃料」  
ジャーニー・トゥ・フォーエバー 平賀 緑
- 「草をお金にかえるには?」  
NPO 法人 九州バイオマスフォーラム 理事長 吉田 愛梨
- 「大木町がめざす循環のまちづくり~生ごみし尿をエネルギーと液肥に~」  
大木町役場 環境課施設推進係 係長 境 公雄
- 「『生ごみを宝に!』持続可能な社会を目指して」  
NPO 法人 伊万里はちがめプラン 理事長 福田 俊明
- 「バイオディーゼル 世界の現状と日本の可能性」  
日本植物燃料 合田 真
- 「熱分解ガス化によるバイオマスのエネルギー利用」  
九州沖縄農業研究センター 薬師堂 謙一
- 「完全嫌気発酵による有機排水・廃棄物の浄化・減量化及びエネルギー回収(水素・メタン)」  
広島大学大学院 先端物質科学研究科 教授 西尾 尚道
- 「バイオマスエタノール製造技術(濃硫酸法)」  
日揮(株) 技術開発センター 室長 長田 靖久
- 「構築されたゼロエミッション屋久島モデルのこれからと未利用バイオマス資源の活用展望」  
鹿児島大学 名誉教授 藤田 晋輔
- 「木質バイオマスの小規模分散型発電技術の最新動向」  
川崎重工業(株) 営業推進本部 バイオマスグループ長 平田 悟史
- 「バイオマス利用促進に今、必要なもの」  
バイオマス産業社会ネットワーク 泊 みゆき
- 「マレーシアパームオイル産業におけるバイオマスの有効利用と地球温暖化ガスの削減」  
九州工業大学大学院 生命体工学研究科 教授 白井 義人
- 「微生物で化学素材のエチレンを造る」  
崇城大学生物生命学部 教授 小川 隆平
- 「不良環境条件下における糖質複合産業の展開を目指した高バイオマスサトウキビの開発」  
九州沖縄農業研究センター作物機能開発部 部長 杉本 明

**東アジアバイオマスシンポジウム 講演要旨集**

- 「国内のバイオマスエネルギー産業の構築に向けて」  
長崎総合科学大学 人間環境学部 教授 板井 正康
- 「砂糖・エタノール複合生産に向けた高収量サトウキビの開発」  
九州沖縄農業研究センター 作物機能開発部 部長 杉本 明
- 「南九州におけるバイオマス利用システムの開発」  
鹿児島大学農学部生産環境学科 教授 守田 和夫
- 「島しょ型バイオマス循環システムの構築」  
琉球大学 農学部 生産システム工学講座 教授 上野 正実
- 「中国におけるバイオマス利用の現状と展望」  
中国農業科学院 農業環境・持続的発展研究所 環境工学部長 董 紅敏
- 「台湾におけるバイオマス利用の現状と展望」  
中興大学 生物産業機電工学系 教授 雷 鵬魁
- 「バイオマスの多段階ガス化/コ・ジェネレーションシステム」  
九州沖縄農業研究センター 畜産総合研究チーム チーム長 薬師堂 謙一
- 「山鹿市鹿本におけるバイオマス資源循環」  
山鹿市鹿本総合支所 産業振興課 課長 柄原 栄一 (他 2編収録)

ご注文方法: お名前・送り先・注文内容(冊数)を明記の上、メールまたはFAX(0967-67-2577)にご連絡ください。



平成17年度の上半期は、本当に多忙で有意義なものでした。昨年末には阿蘇市の提案書がNEDOのシステム化実験事業に採択されましたので、下半期はさらに飛躍的な広がりが期待できそうです。こうした地域に根ざした活動を着実に進めていくためにも、気持ちを新たに頑張りたいと思いますので、会員の皆さまもぜひ様々な方法で活動にご参加ください。今年もどうぞよろしくお願いたします。

